

# 天草・島原の乱

## 小倉と深い関わり

キリシタン禁制時代の象徴的な事件として歴史に刻まれている天草・島原の乱（1637～1638年）。

他にも乱に関係する話が伝えられ、人を引き付けている。

### 四郎の首が小倉の往還に と小笠原家文書

草四郎は現地の原城（長崎県南島原市）で斬首された後、小倉の地で首をさらされた、という話が近年、関心を集めている。小倉にはまた、

実は、小笠原家歴史を記す「御当統史」の第二巻に四郎の首がさらされた」と記されていた。北九

州の歴史家・元九州国際大教授米津三郎氏（故人）がその著「小倉藩史余滴」などで紹介していた。同書は平成7年（1995）刊行。それによると「寛永15年（1638）3月、島原、揆張本大矢野四郎、次に有江監物の首、小倉へ到来、原町と清水寺の間、往還の西かわに、

獄門にかける」と

記されていた。同書によると、「御当統史」は全4巻で小笠原氏の成立から享保8年（1723）までの記録があり、享保年間のころに書かれたものかもしれない、とする。

天草四郎、本名は益田四郎。キリシタン名ジェロニモまたはフランシスコ。小西行長の旧臣益田甚兵衛の子。小西が関ヶ原の戦い

で徳川方に敗れて刑死したため甚兵衛は流浪して長崎入りし四郎はそこで出生した、あるいは甚兵衛は熊本県宇土の江部村に落ち着いて四郎もそこで生誕したなどの説がある。いずれにせよ乱の直前は上天草の大矢野在任で15、16歳の少年。同所や長崎でキリシタンとしての勉学を重ねた。やがて天草領主・寺沢、島原領主・松倉のキリシタン弾圧、飢饉などに苦しむ農民への過酷な年貢取り立てなどの圧政に両藩領民は二揆を起し、原城で合流、四郎は推されて首領となった。

乱は寛永14年（1637）11月に始まり、激戦を重ねて翌寛永15年2月28日、原城に立て籠る二揆勢に対して幕府・諸藩連合軍が総攻撃。当時城内の一揆勢約2万3000人が討ちとられ。四郎は細川藩士陣佐左衛門に首をはねられたとされる。首は一揆軍大将有家監物、姉たちの首とともに城内で、3月には幕府諸藩連合の最高指揮者松平信綱の長崎巡検に合わせて



原城本丸跡の天草四郎墓碑

長崎に送られ、出島の門前に同月17日から23日までさらされた、とされる。

しかし天草・島原の乱についての多くの書、話に小倉での出来事に触れるものは少ない。熊本県天草市の平田豊弘天草切支丹館長も「初めて聞きます」と驚くほど。「実際にあったとすれば、その理由などを是非知りたい」と言う。これについて北九州市立自然史・歴史博物館の守友隆学芸員は「事実か否か確認していない。同書はあくまで藩の史績としての記述であり、どこまでが真実かは不明」と話す。



原城本丸跡に立つ天草四郎像（この地出身の北村西望さん作）

ただ天草・島原の乱と小倉との関係について、当時の小倉藩主・小笠原は徳川譜代で、原城攻撃に参加した諸藩の中で特異な存在。乱

乱鎮庄に挙げた功績を民衆にも誇り、キリシタン禁制強化も凶る狙いだったとも解釈できる。

### 深いキリシタン 小倉民衆の縁

小倉には、乱鎮庄のため幕府の上司として寛永14年11月30日、板倉重昌が到着し、市内の寺院に宿泊した。翌朝、板倉重昌が島原へ

出発直後、寺は出火で焼失した（到着前焼失との説もある）。この寺院は細川ガラシャの霊を祀る秀林院が、当時の小倉藩主細川忠利の熊本移封で解体した跡地に立ったもの。「その板倉重昌はキリシタン討伐の総大将。翌年正月元日の原城総攻撃で戦死した。不思議な因縁に戸惑う人も多い」と郷土史家の故・木島甚久氏は記す。



小笠原家文書に天草四郎の首がさらされた、との記述がある清水寺周辺の道路

また、小倉藩兵は四郎の四天王

の1人とされた森宗意軒を討ち、後に踏み絵や宗門改めに用いた絵像や銅板を戦利品として持ち帰った。最後の総攻撃でただ一人生き残ったとされる絵師山田右衛門作を捕らえ保護したのも小倉藩兵だった。

北九州のキリシタン研究者安東邦昭さん（76）（京都郡苅田町）は言う。「その絵踏みは若松や門司の大里、企救郡、田川、京都郡では幕末まで、宗門改めは明治初めまで行われていました。北九州とキリシタンは加賀山隼人の例を始めとして、もともと関係が深い。民衆はしなやかで、したたか。民衆の目から歴史を見るのが大切です」と。

シニアスタッフ 村田和夫 前回の「石炭港からS.L.が去る」の記事の小見出し「メンペイの会社」は「めんべいの会社」の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。

### ◆北九州歴史文化塾◆

#### 天草・島原の乱 小倉と深い関わり

江戸時代前期の1637～38年に起きた天草・島原の乱で、原城（長崎県南島原市）に立て籠った一揆軍の総大将天草四郎は、現地で討たれ首は現地と長崎・出島の門前で獄門にかけられたとされる。ところが今、小倉の地でも行われたとの説が関心を引いている。この地では16世紀後期からキリシタンとの関わりが深く、そのような話しが生まれたのでは、との見方もあり、真偽は不明。今回の塾では当時の時代背景等について郷土史家に学ぶなどします。

#### 第40回北九州歴史文化塾 行程表 天草・島原の乱 小倉と深い関わり

時間	行程
10:30	講演『小倉とカトリックの歴史』 講師 小野剛史（郷土研究家）
11:30	カトリック小倉教会見学 （加賀山隼人殉教記）
12:00	現地解散

開催日時 11月26日（木）10:30～12:00  
 集合場所 北九州市立商工貿易会館 5F  
 講師 郷土研究家 小野剛史  
 受講料 SAKURA 倶楽部会員 500円  
 一般 1000円

【参加お申し込み・お問い合わせ】  
 さくら編集部 ☎ 093-965-6080